

令和7年度エネルギー使用合理化シンポジウム東北 開催報告

令和8年2月25日(水)に、日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）において、「令和7年度エネルギー使用合理化シンポジウム東北」を開催しました。現地92名、オンライン62名の方にご参加いただきました。

■プログラム

1 基調講演 テーマ:「省エネ・非化石転換技術の最新動向」

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

フロンティア部 脱炭素省エネユニット長 二上 優人氏

基調講演では、2024年5月に策定されました「省エネルギー・非化石エネルギー転換技術戦略2024」に基づく省エネ技術の最新動向とともに、その成果事例をお話いただきました。参加者の皆様からは「省エネの最新動向を改めて伺い、今後の参考になった」等、ご好評をいただきました。

2 事例紹介(受賞者講演)

① テーマ:「省エネ診断から始める脱炭素経営」

三浦建設工業株式会社 代表取締役社長 三浦 統巨 氏

② テーマ:「サプライヤーと創る環境負荷低減」

キヤノンプレシジョン株式会社 大澤 文香 氏

③ テーマ:「脱炭素化に向けた省エネ活動の取り組みについて」

株式会社エヌエスオカムラ 技術部・設備課長 菊池 一男 氏

④ テーマ:「リネンサプライ業と省エネルギー対策」

株式会社同仁社 第一工場 課長兼工場長 齋藤 厚徳 氏

事例紹介では、各社の省エネ取り組み実績について、ご講演いただきました。参加者の皆様からは、「具体的な取り組みを知ることができ参考になった」「自社にも展開できる施策の紹介があった」「投資を抑えたシステムの導入、組織全体での取り組みが素晴らしく参考になった」等ご好評をいただきました。

3 情報提供 テーマ:「令和7年度補正事業における省エネ支援策の概要について」

東北経済産業局 エネルギー対策課 省エネルギー対策官 井上 氏

情報提供では、資源エネルギー庁省エネルギー課提供の資料により、「令和7年度補正予算における省エネ支援パッケージ」として省エネ・非化石転換補助金、省エネ診断に関する説明を東北経済産業局より行いました。参加者の皆様からは「省エネ支援パッケージ等の連絡に関しては最新の情報を得られる為、非常に助かる」等ご好評をいただきました。

■当日の様子

※左から順に国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構、三浦建設工業株式会社、キヤノンプレシジョン株式会社、株式会社エヌエスオカムラ、株式会社同仁社、東北経済産業局のご講演の様子

